

中部の

エネルギーを 築いた

人々

片倉製糸・

三代片倉兼太郎と電気事業

わが国の製糸業を代表する片倉工業株式会社は、1873（明治6）年に片倉市助が長野県諏訪郡川岸村（現在：岡谷市）で10人取りの座繰り製糸を創業したのに始まる。

片倉市助の長男として生まれた初代片倉兼太郎は、1878（明治11）年、天竜川河畔に32人繰りの洋式器械製糸工場・垣外製紙場を創業した。その後、片倉一族が一致団結して製糸事業を拡大し、1895（明治28）年に片倉組を結成し、初代兼太郎が経営を統率した。

二代片倉兼太郎は、片倉市助の末弟佐一が襲名し、1920（大正9）年に片倉組を継承し、片倉製糸紡績株式会社（資本金：5,000万円、本社：東京）を設立した。また、片倉生命保険、片倉米穀肥料株式会社などを創立し事業を拡大していった。

三代片倉兼太郎は、1884（明治17）年に二代兼太郎の長男として川岸村に生まれた。地元の諏訪実科中学を中退し、1902（明治35）年に片倉組に入り製糸業に従事した。1934（昭和9）年に三代片倉兼太郎を襲名、片倉合名会社代表社員に就任、片倉コンツェルンの代表として数多くの役員を兼ねた。さらに貴族院議員に当選（昭和14年）、株式会社八十二銀行取締役頭取に就任（昭和14年）、松本商工会議所会頭に推薦（昭和16年）、このほか、松本商業学校、松本女子実業学校の理事長に就任した。終戦後の1947（昭和22）年、62歳の生涯を終えたが、岡谷蚕糸博物館・岡谷美術考古館および諏訪湖畔の片倉館には兼太郎のコレクションが寄贈されている。

また、在任中の1939（昭和14）年に旧官営富岡製糸場を合併した。同工場は1987（昭和62）年まで約115年間操業を続けたが、その後も貴重な産業遺産として管理された。2005（平成17）年に「旧富岡製糸場」として国の史跡に指定、翌年、明治8年以前の建物が国の重要文化財に指定された。なお、すべての歴史的建造物は地元の群馬県富岡市に寄贈され、2007（平成19）年に日本のユネスコ世界遺産暫定リストに登録された。



三代片倉兼太郎(1884~1947)
(出典：三代片倉兼太郎君追想録)

片倉製糸の事業多角化

三代兼太郎は「父祖の製糸業は遠からざる将来において縮小を余儀なくされるであろう。これに代わるべきは電気、化学の重工業部門に暫時転換していかなくてはならん」とし、片倉殖産株支会社（資本金：150万

円、大正10年）、片倉生命保険（資本金：50万円、大正11年）、日東紡績（資本金：500万円、大正12年）、片倉米穀肥料（資本金：80万円、大正13年）、富国火災海上保険（資本金：200万円、大正14年）、昭和興業（資

本金：500万円、昭和3年）、昭和絹靴下（資本金：150万円、昭和4年）、東邦石油（資本金：100万円、昭和8年）、東亜産業（資本金：200万円、昭和10年）、大東鉱業（資本金：500万円、昭和12年）などの株式会社を設立し進出していった。

ここで、三代兼太郎が電気事業に関わるようになった諏訪電気株、安曇電気株、中央電気株などを中心に報告する。

(1) 諏訪電気株式会社の設立

諏訪地方の電気事業は、諏訪電気が1897（明治30）年に設立された。しかし、株式の払込が遅れたため、最初の落合発電所（出力：60kW）が完工された1900（明治33）年に開業し、3年後に蝶ヶ沢発電所（出力：250kW）が建設された。

初代社長は、文部省次官を務めた辻新次が就任した。また、辻は1907（明治40）年に設立された諏訪電気の姉妹会社であった伊那電気軌道株の社長に選任された。

諏訪地方は、当時、わが国最大の生糸産地であり、工場用照明、用水用動力、製紙用動力などに電気が利用された。しかし、これらの需要増加に対処することができなかったため、1912（明治45）年、地元の製糸事業者などが松本電灯株から受電する岡谷工業電気株を設立したが、同年、諏訪電気が吸収合併した。

これを機に、諏訪電気の経営は一新され、本社を東京から下諏訪町に移転し、第2代社長に地元の銀行家・小口長蔵が就任した。そして、①松本電灯株から350kWの受電 ②電気料金の引き下げ ③伊那電車軌道との分離等を実施した。さらに、自社の水力発電所の建設、他社発電所の買収や合併

などを図った。

これらの電源開発に伴い、余剰電力を有効に活用するため、カーバイド製造を目的とする諏訪電気工業株が1916（大正5）年に設立されたが、関東大震災後不況に陥り、1924（大正13）年、諏訪電気と合併し、同社塩尻工場、後に昭和電工株塩尻工場となった。

その後、諏訪電気は順調な経営を続け10%以上の配当を続けたが、世界大恐慌の影響が諏訪の製糸業界にも現れた。さらに、内紛による技術員50名の退社事件や全国的に広がった電気料金の値下げ問題などが起きた。



「諏訪電気株式会社本社跡」の記念碑と地元歌人鳥木赤彦の歌碑「電灯に照らされている朝顔の紺色の花曉近づけり」
——中部電力株下諏訪営業所の跡地



「御柱祭」の難所・木落坂の傍らにある中部電力株落合発電所

このような経営混乱の中、経営陣の交代が行われた。

(2) 三代片倉兼太郎の社長就任

三代兼太郎の社長就任の経緯については、追想録に「昭和4年暮れに諏訪電気会社から三代に救済を申し込んできた…三代は地方産業のためと一つは親戚である小沢氏(第3代社長：小沢福太郎)を扶ける意味で社長を引き受けて乗り出したが、これが電気に関係する最初の事であった。ところでこれを引き受けるに当たって、以前から昭和肥料の社長森轟昶氏、常務が高橋保氏で、片倉との関係は昭和肥料の硫酸アンモニアを片倉肥料が買入れる関係上、森・高橋ひいては昭和肥料と片倉の関係は昭和3、4年の頃から始まっていた。元来この二人は電気の開発建設および電気を原料としてやる事業に渾身の力を払い、信州各水系の発電に関係していた。そこで三代が諏訪電を引き受けるについて工学士たる高橋氏の意見を聞き、三代が社長になると同時に高橋氏を取締役に据え、これと味の素の有力重役石渡某氏などを入れて本当に諏訪電気を更生させるためにやり始めた。更生に要する資金は安田と興銀でどうにかなるが、整理について首切り反対と電気料金値下げ問題で困った…」と追想録に記述されている。

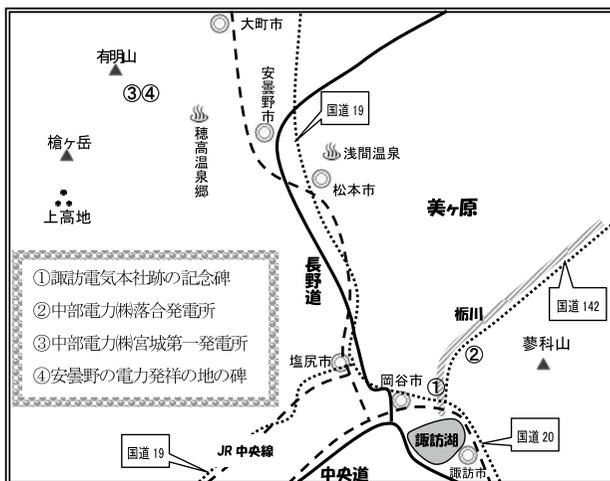
(3) 諏訪電気・安曇電気の合併と信州電気株の設立

安曇電気株式会社(資本金：5万円、本社：大田市)は、1903(明治36)年に設立され、初代社長に横沢本衛が就任した。翌年、北アルプス燕岳を源とする中房川に宮城第一発電所(出力：250kW)を完工させた。大町・穂高・豊科の3ヶ所に変電所を建設し安曇地方に電力供給を開始した。当時、長野県下最大の発電所であり、送電電圧も11kVと最高電

圧の送電線であった。昼間の余剰電力は、日本初の電気製鋼を完成させた土橋長兵衛の「亀長電気工場」に送電された。また、この発電所は、現役最古参の発電所として稼働しており、産業遺産としても貴重なものである。その後、安曇電灯は1926(大正15)年に小谷電灯株、1927(昭和2)年に姫川電気企業と合併した。しかし、不況の影響で電灯・電力の需要が減退するなか、経営に行き詰まりを生じ片倉財閥に救済を申し込んできた。

三代兼太郎は、1931(昭和6)年に安曇電灯の相談役に就任した。そして需要を拡大するため、大町にアルミニウム製造工場を誘致することに全力を挙げた。一方、昭和電工株は前に述べたように諏訪電気から塩尻工場のカーバイド部門を買収して拡張し、アルミニウムの原料アルミナの製造に着手していた。また、大町町も高瀬川沿いの川原10万坪を無償提供し、昭和アルミニウム工業所が建設された。そして電力は安曇電灯から供給され、1934(昭和9)年にわが国初のアルミニウム生産に成功した。このようにして、事業多角化を目指していた片倉製糸は森コンツエルンとの絆を強化していった。

時局が戦時体制に向かう1937(昭和12)年、臨時株主総会において諏訪電気と安曇電気との合併が決議され、信州電気株式会社が設



立された。その内容は、① 諏訪電気を継承会社とし安曇電気を解散する ②商号を信州電気にする ③本店を東京に移転し、下諏訪町、大町町に支社を置き、株主総会を4月下諏訪町、10月大町町で開催することなどである。

このようにして、信州電気(株)は23水力発電所(発電力最大：41,600kW)、他



運転開始80年を記念し建てられた「安曇野の電力発祥の地」の碑

社受電2,000kWを電源として、岡谷市、諏訪郡(一円)、北安曇郡(一円)、南安曇郡(14ヶ町村)、東筑摩郡(14ヶ村)、更級郡(2ヶ村)、上水内郡(1ヶ村)、上伊那郡(2ヶ村)、小県郡(1ヶ村)など中・南信地域に電灯電力を供給した。

なお、三代片倉兼太郎の簡単な事歴は次のとおりである。(寺沢 安正)

三代片倉兼太郎の事歴(1884～1947)

1884	明治17	長野県諏訪郡川岸村に生まれる
1897	明治30	諏訪電気株式会社設立(取締役社長：辻新次)
1899	明治32	諏訪電気・落合発電所完工(出力：60kW)
1902	明治35	片倉組に入り製糸業に従事
1907	明治40	諏訪電気の関係会社・伊那電車軌道(株)設立(社長：辻新次)
1912	明治45	岡谷工業電気(株)が設立されたが、諏訪電気(株)が吸収合併
1913	大正 2	諏訪電気・電気料金引き下げ
1914	大正 3	諏訪電気株式会社取締役役に就任 伊那電車軌道・諏訪電気との送電契約解消
1916	大正 5	関係会社・諏訪電気工業株式会社設立
1920	大正 9	片倉製糸紡績株式会社を設立、取締役役に就任(片倉組の法人化)
1924	大正13	諏訪電気工業(株)を合併(後の昭和電工・塩尻工場)
1930	昭和 5	諏訪電気株式会社取締役社長に就任 諏訪電気・電気料金約1割引き下げ
1931	昭和 6	安曇電気株式会社相談役に就任
1934	昭和 9	三代片倉兼太郎を襲名、片倉合名会社代表社員に就任
1935	昭和10	片倉製糸紡績株式会社取締役会長に就任
1936	昭和11	中央電気株式会社取締役役に就任
1937	昭和12	諏訪電気(株)と安曇電気(株)が合併し、信州電気株式会社設立 信州電気株式会社取締役社長に就任
1941	昭和16	片倉製糸紡績株式会社取締役社長に就任 財団法人松本女子実業学校を設立し理事長に就任 松本商工会議所会頭に就任
1942	昭和17	中央電気工業株式会社取締役役に就任 岡谷商工会議所会頭に就任
1944	昭和19	諏訪工業株式会社取締役社長に就任
1947	昭和22	死去